

『量的降灰予報』について② ～降灰量 と とるべき行動～

前回の一口メモで、『量的降灰予報』には、利用者の用途に合わせて、「噴火前の情報」、「噴火直後の速報」、「噴火後の詳細な予報」の3種類があり、「噴火直後の速報」と「噴火後の詳細な予報」では予想される降灰量もお伝えすることを紹介しました。

気象庁は、降灰量に応じた適切な行動をとってもらうため、下表のような「降灰量階級表」を作成しました。約60名の死者を出した1914年の桜島の「大正噴火」と同程度の規模の噴火のシミュレーション結果（気象研究所による）では、風向きによっては、大阪に厚さ1mm以上の降灰量が予想されています。1mmという、数字としては小さく感じるといいます。しかし、「降灰量階級表」では、1mm以上は“多量”という分類に入り、“屋外での活動を控えたほうがよい”という状況になります。

『量的降灰予報』で、どこに、どの程度の量の火山灰が降るのかを把握した後は、「降灰量階級表」を参考に、適切な防災対応をとってください。

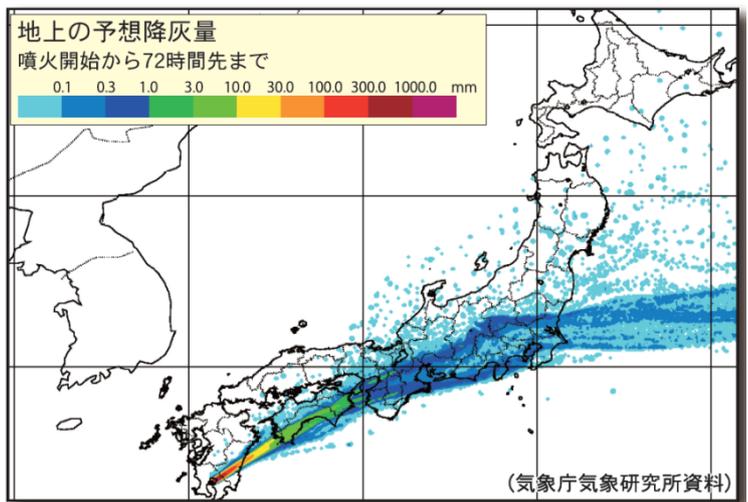


図 1914年「大正噴火」の規模の噴火を想定した気象研究所による降灰のシミュレーション結果
(桜島火山活動による被害写真集平成26年7月 桜島火山活動対策協議会より)

名称	表現例			影響ととるべき行動		その他の影響
	厚さ キーワード	イメージ※1		人	道路	
		路面	視界			
多量	1mm 以上 【外出を控える】	完全に覆われる 	視界不良となる 	外出を控える 慢性的な喘息や慢性閉塞性肺疾患（肺気腫など）が悪化し健康な人でも目・鼻・のど・呼吸器などの異常を訴える人が出始める	運転を控える 降ってくる火山灰や積もった火山灰をまきあげて視界不良となり、通行規制や速度制限等の影響が生じる	がけへの火山灰付着による停電発生や上水道の水質低下及び給水停止のおそれがある
やや多量	0.1mm ≦ 厚さ < 1mm 【注意】	白線が見えにくい 	明らかに降っている 	マスク等で防護 喘息患者や呼吸器疾患を持つ人は症状悪化のおそれがある	徐行運転する 短時間で強く降る場合は視界不良の恐れがある 道路の白線が見えなくなるおそれがある（およそ0.1～0.2mmで鹿児島市は除灰作業を開始）	稲などの農作物が収穫できなくなったり※2、鉄道のポイント故障等により運転見合わせのおそれがある
少量	0.1mm 未満	うっすら積もる 	降っているのが ようやくわかる	窓を閉める 火山灰が衣服や身体に付着する 目に入ったときは痛みを伴う	フロントガラスの除灰 火山灰がフロントガラスなどに付着し、視界不良の原因となるおそれがある	航空機の運航不可※2

※1 掲載写真は気象庁、鹿児島市、(株)南日本新聞社による
※2 富士山ハザードマップ検討委員会(2004)による想定

表 降灰量階級表（気象庁HPから）詳しくは以下のURLをご参照ください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/qvaf/qvaf_guide.html#class